

環境緑化技術の手引き

2012年4月

樹木医・環境造園家・豊田幸夫

はじめに

1992年にブラジルで採択されたアジェンダ21の最大の目標は「人類が自然と調和しながら健康で豊かな生活をおくり、持続可能な発展を続けること」であり、その思想は、地球環境を脅かす生産消費型の生活が「真の豊かさ」でも「真の発展」でもないということです。

また、「人間は自然生態系の一部」であり、自然から多くの恵みを受けている。自然界には不要なものは一切なく、生態系の中で何らかの役割をし、健全な生態系を維持しています。

現在の深刻な環境問題を解決するには、人々の意識の変革と、自然界の物質循環・エコシステムを活かすことなくしてありえません。自然・緑の保全・復元・創出が非常に重要で、「環境配慮設計」「環境への配慮と自然との共生を図った環境造園」「緑による癒しの環境づくり」の必要性はより高まり、関連した緑化技術、製品の情報を知っておくことはより重要になるものと考えます。

そこでここでは、知っておいてほしい緑化・植栽の基礎的な事項を紹介したいと思います。

プロフィール

<略歴> 1974年・千葉大学園芸学部造園学科卒、鹿島建設入社。1977年・桑沢デザイン研究所基礎造形科修了。1997年・鹿島・ランドスケープデザイン部兼務技術研究所。1999年・(株)ランドスケープデザインに出向、設計部・技術部長。2010年・鹿島建設退社。現在、樹木医・環境造園家として活動している。

<資格> 樹木医、技術士(建設環境)、一級造園施工管理技士、英国園芸療法指導者(2級)。

<講師> RHS J(英国王立園芸協会日本支部)コンテナガーデニング協会・講師他。

<委員> (財)都市緑化機構・特殊緑化共同研究会・副運営委員長、NPO東京樹木医プロジェクト・理事他。

<主要著書> 「エコ&ヒーリングランドスケープ(環境配慮と癒しの環境づくり) 鹿島出版会・2005年、
「建築家のためのランドスケープ設計資料集」鹿島出版会・1997年、「建築家のための造園設計資料集」
誠文堂新光社・1990年。「知っておきたい屋上緑化のQ&A」共著・鹿島出版会・2003年「建築設計資料集成 地域・都市 設計データ編」共著・丸善・2004年。その他多数。

<目次>

1. 自然及び植物の効果・効用
2. 環境造園と環境配慮設計
3. 土壌と植栽基盤
4. 屋上緑化
5. 壁面緑化
6. 室内緑化
7. 駐車場緑化
8. ヒーリングガーデン
9. エディブルガーデン
10. ビオトープガーデン